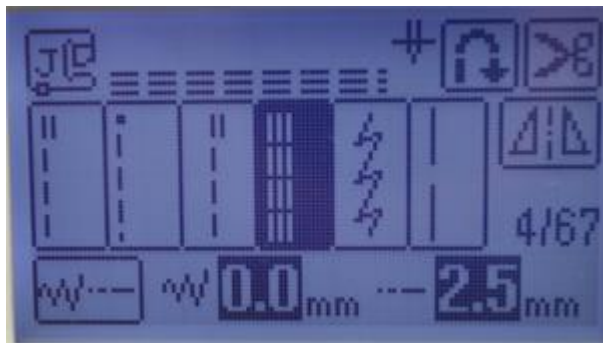


みごろのすそとそで口にほつれ止めをしてください。  
伸びない生地ではつれどめするときは縫う前の下準備をご覧ください。



ニットのほつれ止めは左のように点線のジグザグを使います。  
型紙に指定された所に接着芯を貼ってください



よく伸びるニットの縫い方

普通の縫い方だと糸が切れるので[ニット用のレジロン糸](#)を購入してください

図のような三本線の柄を選択上糸の調子を強めに  
して縫ってください。

これだとかなりの伸縮でも耐えます。

あまり伸びないTシャツ生地だと右隣の雷状の伸縮縫いという機能が使えればこちらを使うといいですよ。



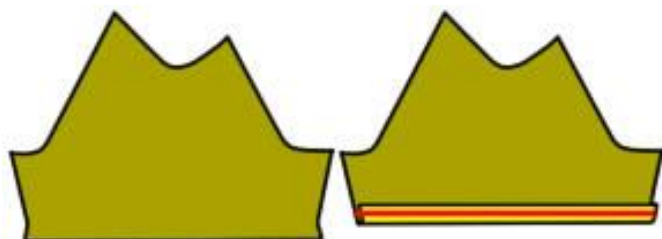
ニットを使う場合は、伸びる生地なので縫っていると  
どんどん伸びたりずれたりして長さが合わなくなったり、  
伸びたりします。

そこで細かい番手の紙やすりを帯状に切って、布と  
押えの間にはさむと、伸びやズレが減ります。

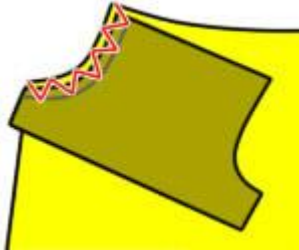
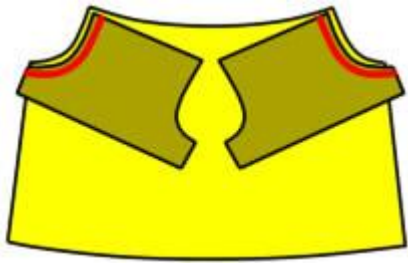
※紙やすりを一緒に縫わないように注意。



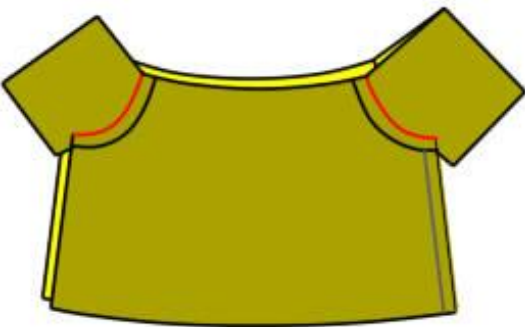
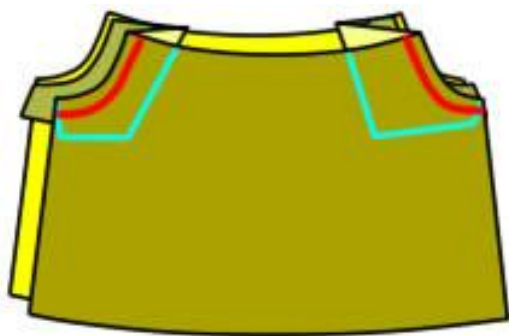
半そでの場合。



そで口の縫い代を折ってください。



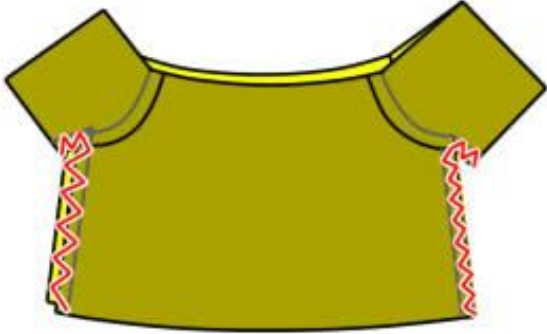
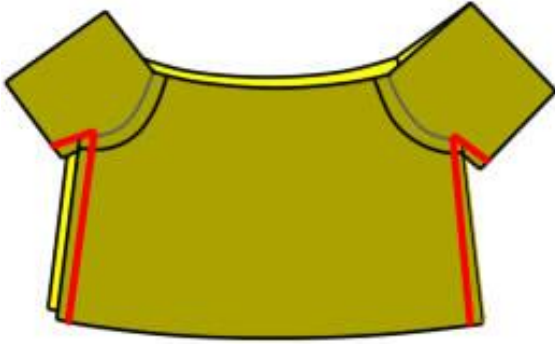
表にした前身頃の上に裏を上にした  
そでを重ねて縫ってください。  
2枚一緒にほつれ止めをしてくだ  
さい。



そでの上に後身頃を裏を上にして重ねて縫ってくだ  
さい。

ほつれ止めをしてください。

←そでを裏に引っ張り出すとこんな感じになります

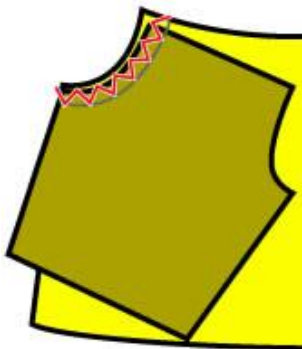
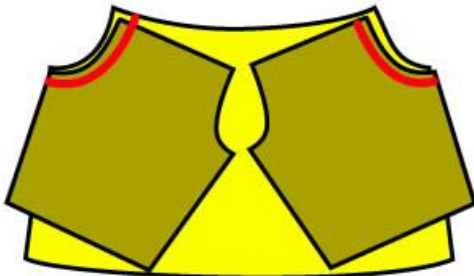


そで口から脇を続けて縫って下さい。

前後2枚一緒にほつれ止めをしてください



## 長そでの場合



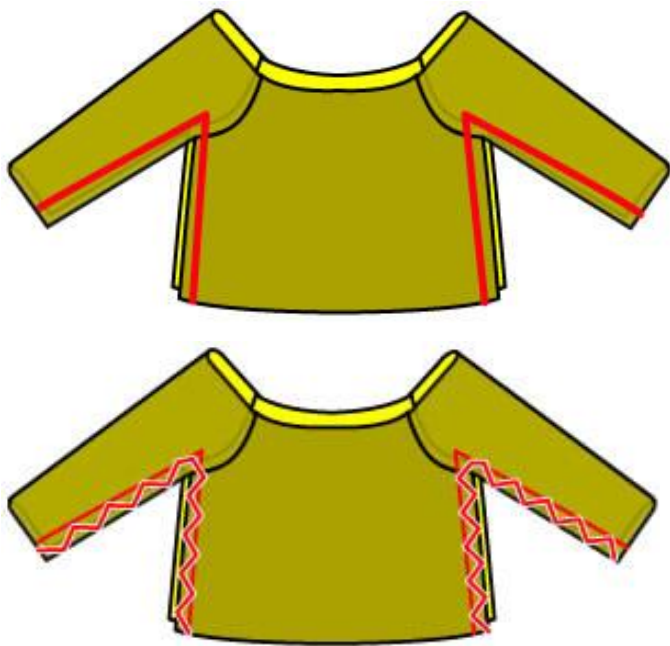
前見頃(胴体)の上に裏が見える  
ようにそでを重ねて縫ってください



そでの上に後身頃の裏を上にして重ねて縫ってください。  
ほつれ止めをしてください。

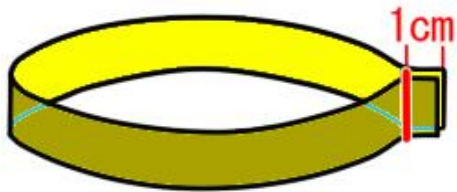


そでを引っ張り出すとこんな感じ

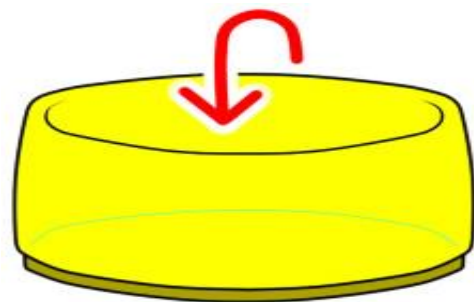


そで口から脇を続けて縫って下さい。

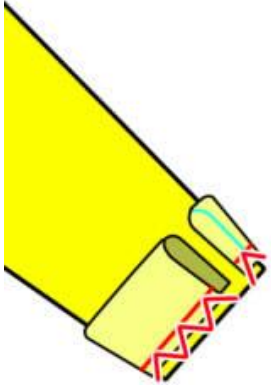
前後2枚一緒にほつれ止めをしてください



そで口のカフスのリブニットをわっかにしてください。



そで口のカフスを二つにおってください。



表にひっくり返してそで口にカフスを被せて伸ばしながら縫って下さい。

そで口に2枚重なった方を縫

いつけます。

カフスを起こし、縫い代を中に入れて下さい。

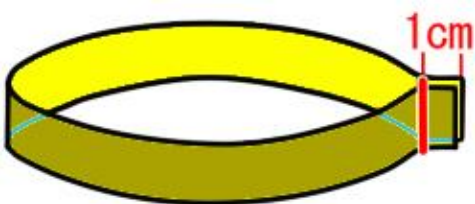
ほつれ止めをしてください



## 四角い型紙のえりの縫い方

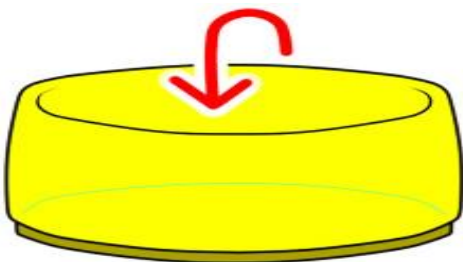
えりに伸縮を持たせて体にフィットさせたいときは四角のえりの型紙を使う。

リブニットというよく伸びるニット生地を使ってください

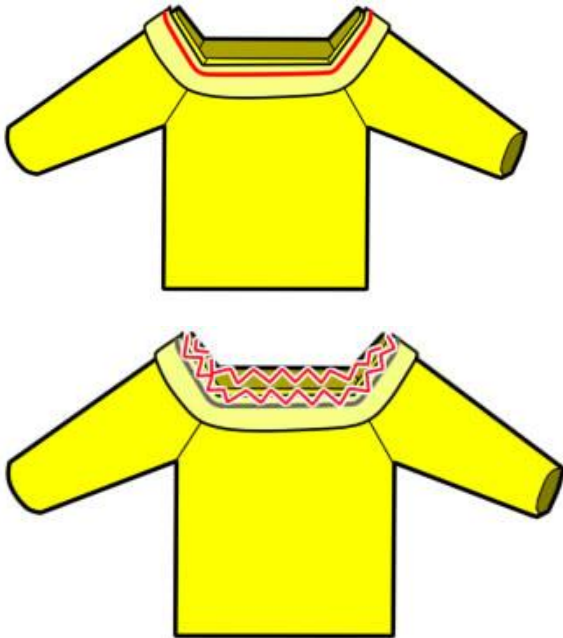


えりのリブニットをわっかにして

ください。



えりのリブニートを二つにおってください。



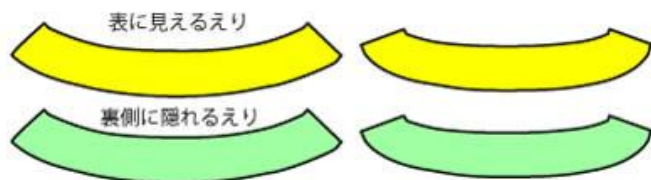
しるしを合わせてえりのリブニットを伸ばしながら縫って下さい  
一緒にほつれ止めをしてください。  
型紙どおりにつけた印同士を合わせて、襟を伸ばしながら縫ってください。



えりをおこし、縫い代は見頃(胴体)側に折ってください。  
首の縫い目から5mmの所を縫って縫い代を固定してください。



## 伸びない生地でえりを作る場合 カーブのえり

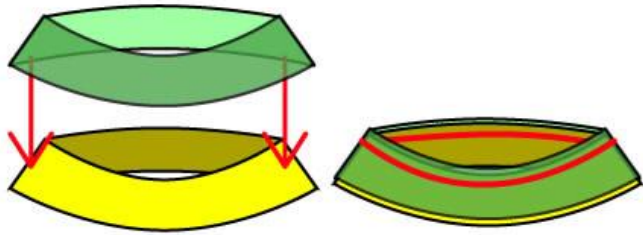


後と前の襟を2枚ずつ切ってください。  
えり1とえり2の型紙がありますが  
えり1だとくりが深め、えり2だとくりが浅めで作れます。  
別に裏地で作らずに表と同じ生地で作って問題はありません。  
表生地が厚すぎる場合は裏側のえりを薄い生地にしても良いです。

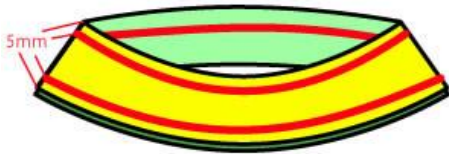


前と後を表が内側になるように重ね両肩を縫って下さい。

二組作ってください



表が見えるようにしたえりに裏が見えるようにもう一枚のえりを重ねてください。上から1cmの所を縫って下さい



表側にひっくり返して5mmの所を縫って下さい



しるしを合わせてえりのリブニットを伸ばしながら縫って下さい。緒にほつれ止めをしてください



えりをおこし、縫い代は見頃(胴体)側に折ってください。

首の縫い目から5mmの所を縫って縫い代を固定してください。



#### 必要な道具

表生地、えりとそで口を伸縮させたい場合はリブニット えりを伸ばしたくない場合は接着芯  
ニットを使う場合はニット針とニット糸。

#### オススメ生地

##### 綿の柄生地

薄い色だと透けやすいので、白や水色などの色が薄く彩度の高いものは裏地をつけるか下に同系色のチューブトップを作って着ると下着が透けずによいかもかもしれません。

##### 薄手のニット

あまり厚いニットだともったりするのでTシャツ～ポロシャツ位の厚みのニットがいいと思います。

##### リブニット

えりやそで口を体にフィットさせたいときはこれを選んでください  
主にえりや袖に使います

##### サテン

ドレス風に仕上げたいならこれ。  
光沢が派手だと思ったら裏を表にして使ってもいいですよ

##### 2WAY レオタード生地

サテンを表地にすると、リブニットだと風合いを合わせにくいので、光沢のあるレオタード生地を合わせると全体の統一感がとりやすいと思います。

##### ニット針

ニットは伸びたとき上下左右から力がかかります。  
なので繊維をちぎりながら縫ってしまうと伸びたときに穴が広がってしまうので、生地にダメージを与えにくい、ニット用の針を使ってください。

##### ニット糸

普通の糸だと伸びないので、伸縮についていけず切れてしまいます。  
レジロンというニット糸だとどこの手芸店でも比較的手に入りやすいです。